



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <http://www.tmgghig.jp/>

第129号 (平成28年9月号)

聴覚障害に対する診療について

耳鼻咽喉科医長 高橋 正時

はじめに

耳鼻咽喉科は主に耳、鼻、のどの疾患を対象としており、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚器の障害や飲み込み（嚥下）運動の障害の診断、治療を行っております。当センターでは耳鼻咽喉科専門医2名、専攻医1名で耳鼻咽喉領域の疾患に幅広く対応しております。今回はそのなかで、当センターで行っている聴覚障害に対する診療についてご紹介いたします。

聞こえの基礎知識

聴覚とは、外部の音刺激が耳を介して脳へ伝わることで生じる感覚で、聴覚障害とは、音を脳へ伝える耳のどこかで音の伝わりを妨げてしまうことです。耳のどこが悪くなっているかで、治療方法が異なるため、どの部分が障害を受けているかを診断することが重要となります。

耳の構造は大きく分けて3つに分類されます。外の音をはじめに耳に入る部分を外耳といい、外耳に入った音は中耳に伝達されます。中耳に音が伝わると、その刺激が内耳に伝わり、音刺激が電気信号に変換され、神経から脳に音刺激が伝わります。外耳や中耳の障害で聞こえにくくなることを伝音難聴と呼び、内耳や神経の障害で聞こえにくくなることを感音難聴と呼びます(図1)。当センターでは、どの部分で聞こえが悪くなるかを診察や聴覚検査によって判断し、どの程度の聞こえであるか(聴力レベル)を詳しく説明し、適切な治療を行っております。ここで、聴覚障害になる代表的な疾患と加齢による聴覚障害について説明します。

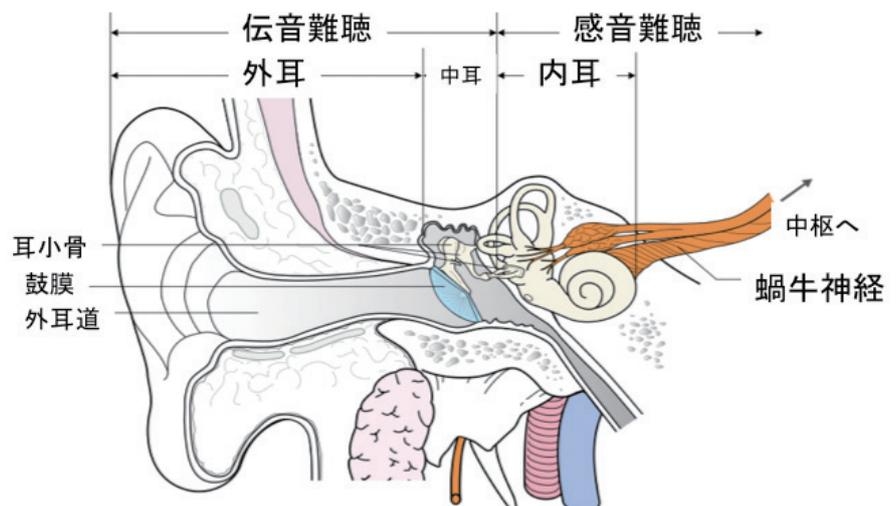
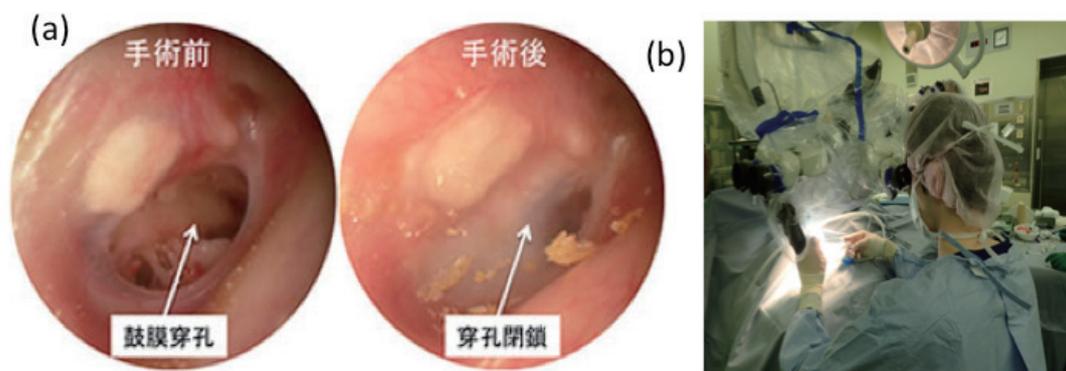


図1 耳の構造と難聴の種類

(中山書店：ENT 臨床フロンティアサイト・イラスト集より)

伝音難聴の代表的な疾患—慢性中耳炎

幼少期などに急性中耳炎を起こすと鼓膜に穴が開き（穿孔）、耳だれ（耳漏）が出てくることもあり、適切な治療を受けなかったり、治療が不十分になったりすると、鼓膜の穴が閉じなくなり鼓膜に穴が残ってしまうことがあります。鼓膜に穴があいた状態が続けば聞こえにくくなり、外耳から侵入した雑菌によって中耳の粘膜に直接炎症を起こし、耳漏を反復するようになります。炎症を反復することによって、聞こえはどんどん悪くなり、内耳の機能の低下を招くこともあります。高齢者では、中耳炎による鼓膜穿孔の影響で、補聴器が耳漏で故障したり、着けにくくなったりする原因となることもあります。慢性的な耳だれのある方には、投薬や外来処置による通院治療を行います。手術により聴力の改善が見込まれる方には、鼓室形成術や鼓膜形成術を行います。入院期間は1週間程度ですが、術後通院が必要となります。手術時の剃毛は、ほとんど必要ありません。比較的小さな鼓膜穿孔のみの場合には、短期入院による局所麻酔下の鼓膜形成術も積極的に行っています。鼓膜と内耳をつなげる耳小骨に障害がある場合には、耳介軟骨や人工耳小骨などを用いた聴力改善のための伝音再建術を行っています（図2）。



(a) 鼓膜の穿孔が手術によって閉鎖しています。
(b) 手術風景 顕微鏡や内視鏡による手術を行っています。

図2 慢性中耳炎に対する鼓室形成術

加齢に伴う感音難聴

一般に加齢性難聴と呼ばれ、聴覚機能の老化が原因の聴覚障害であり主に内耳機能の低下で起こる聴覚障害です。

聴覚の加齢変化は40～50歳代ではそれほど個人差はありませんが、60歳を過ぎると高音域の周波数から聴力の低下が起こり、聴力の良い人と悪い人の差がはっきりしてきます（図3）。自覚症状としては、時々聞き返すことがある、小さな耳鳴りがする等の症状があります。さらに進行すると、聴力は全周波数で低下し、音の聞こえが悪いという症状のほかに、言葉の聞き取りが悪いなどの症状が出現し、人との会話に影響することがあります。加齢性による聴覚障害を回復させる治療は今のところありません。騒音による影響は加齢変化に加わりますので、大音量での音楽鑑賞や騒音環境下での生活をできるだけしないようにすることが重要です。また、高血圧、糖尿病などにより加齢性難聴は悪化するとされていますので、日頃からの健康管理も重要です。聴覚障害で人との会話や仕事に支

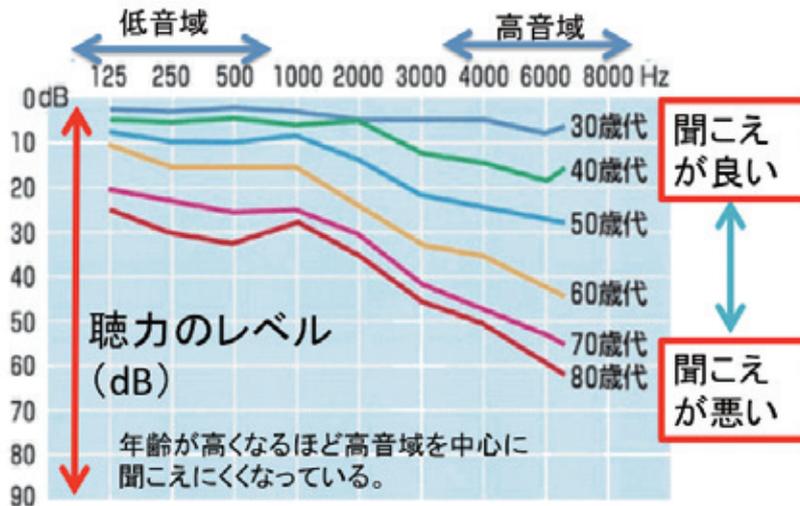


図3 加齢による聴力の変化

(日本耳鼻咽喉科学会報「聴力の年齢変化の研究」鈴木敬第2表より作図)

障を来してしまうようであれば補聴器をおすすめしています。高齢者の場合、難聴が進めば、人との会話が楽しめなくなり、家族と一緒にテレビを見ることもできなくなり、人を避け孤独な生活パターンを選びがちになることもあります。より快適な生活を送るためにも聴覚障害のある高齢者に対しては補聴器の装用が望ましいと考えます。しかし補聴器は、難聴があると思われたくない、着け心地が悪い、着けても聞き取れないなど決して良い印象だけではありません。しかし、その多くは補聴器の選択が正しくないことが原因であり、当センターでは補聴器装用の前には、語音弁別能、聴力レベルを測定し、どのような補聴器が必要であるかを判定します。補聴器は人それぞれの聞こえに合わせる必要があります(フィッティング)、当センターでは3名の補聴器適合判定医によって適切な補聴器の装用の指導や説明を行っております(図4)。



- (a) 耳かけ型
- (b) 耳あな型
- (c) ポケット型

聞こえ方や使用しやすさによって適切な型を補聴器適合判定医が指導します。

資料提供: マキチエ補聴器

図4 補聴器の種類

最後に

当センターでは聴覚障害のある高齢者がより快適な生活を送るために、聴覚障害の原因を詳しく調べて適切な治療や指導を行っております。聞こえでお困りの方は是非とも当センターで診察を受けていただくよう、スタッフ一同お待ちしております。

がん相談支援センターをご活用ください

がん相談支援センター 中馬 かつら

はじめに

平成 28 年 4 月より、地域の皆様やがん患者さま・ご家族が安心して治療・療養できるよう、がん相談支援センターが設置されました。場所は、1 階入退院支援室内にございます。

受診やセカンドオピニオン、福祉や介護サービスや緩和ケアについてのご相談、がんの療養や生活についてのご不安など、様々な心配ごととの解決に向けて一緒に考えていきます。

相談方法

当院受診歴の有無を問わず、どなたでも無料でご相談いただけます。電話相談のほか、面談による相談があり、当院看護師や医療ソーシャルワーカー等が対応いたします。

窓	□	1 階 ⑧窓口 入退院支援室内
電	話	03-3964-5946(直)
相 談 時 間		月～金曜日 9 時～ 17 時

2 階渋沢サロン内に、疾患別がんリーフレットや書物を置いてあります。ご自由に閲覧ください。



私たちに
ご相談ください

後列左から
岸看護師、黒岩副院長、黒坂看護部長、
瀬川医療ソーシャルワーカー (MSW)

前列左から
最上看護師、中馬 MSW、松崎看護師、
川口 MSW

よくあるご質問

治療の方針で迷っています。
どうするのが
いいのでしょうか。

あとどのくらい
元気で過ごせるのかな。

先生に聞きたいことが
聞けません。

治療の副作用が
心配…

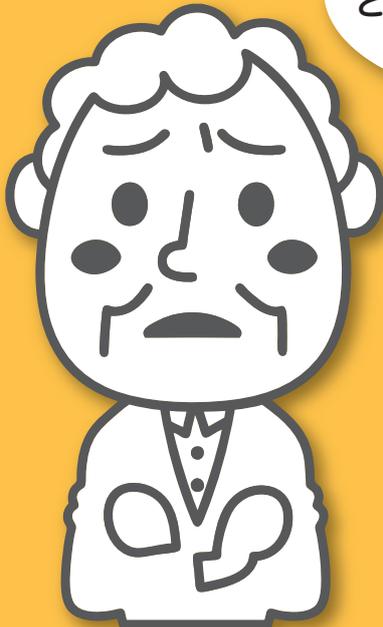
髪が抜ける、だるい、
しびれる、吐気など
副作用がつらいです。

緩和ケア病棟の
申し込みを
すすめられました。

セカンドオピニオンを
受けるには
どうしたらいいの？

できる限り自宅で
過ごしたい。
身の回りのことが
できなくなってきたら
どうしたらいいのか…

痛みが出てきました。
どうしたらよいですか？



おひとりで悩むよりも、相談員
と一緒に考えることで気持ちの整理
がつき、解決の糸口が見つかる
かもしれません。

漠然としたご不安でも、是非ご
相談ください。



患者さまの声

トイレの便座が熱かった。適温にして欲しい。
→ご不快な思いをおかけしまして大変申し訳ございません。5月中旬よりトイレ便座の温度を下げ始めたところです。今後もお気づきの点がございましたら、随時お近くの職員までお申しつけください。

なぜ、外来処方箋をFAXする機械がないのか。
→当院では、以前にFAXを設置しておりましたが、誤って第三者へ個人情報を送信する事案があったため、設置を取りやめた経緯があります。何卒、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



電話での予約時に3回かけても繋がらなかった。

→予約の電話につきましては、混雑時にはどうしてもお待たせしてしまう場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、午後の時間は比較的繋がりがよくなっておりますので、お掛け直しくさせていただきますよう、お願いいたします。

第2駐車場の早急な地面の対策を希望する。雨が降ると最悪だが、晴れていても大きく掘り下げていては危険である。事故が起きてからでは遅いので早急に対策いただきたい。

→ご迷惑をおかけして大変申し訳ございません。第2駐車場のくぼみは、患者さまが通行する際の障害となりご不便をおかけしておりました。くぼみに砂利を埋めることで至急対応いたします。

第144回老年学・老年医学公開講座

今日からできる！

サルコペニア・フレイル予防法 —筋力低下と虚弱を防ぐ—

平成28年

11月16日水

13時15分から16時30分まで
(開場12時15分)

☎手話通訳あり

当日先着
1,300名
申込不要
入場無料

会場 北とびあさくらホール

地方独立行政法人

主催 東京都健康長寿医療センター

共催 北区、東京都老人クラブ連合会

後援 一般社団法人北区薬剤師会



講演1

『最近の研究でわかった「運動」と「食事」の大切さ』

東京都健康長寿医療センター研究所
老年病態研究チーム研究部長

重本 和宏

講演2

『サルコペニアの予防対策はこれだ！』

東京都健康長寿医療センター研究所
自立促進と介護予防研究チーム研究部長

金 憲経

講演3

『フレイルの対策は健康長寿の道しるべ』

東京都健康長寿医療センター
内科総括部長

荒木 厚

司会

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長

遠藤 玉夫